

平成 18 年度ホタテガイ採苗情報（第 7 報）

平成 18 年 6 月 8 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「稚貝は継続して多数付着しています。」

1 ラーバの出現状況

6月8日に唐丹湾でラーバ調査を行いました。

ホタテガイラーバの出現数は、殻長 200 μ m未滴が 28 個/トン、殻長 200 μ m以上が 35 個/トンと前回調査時（合計 40 個/トン）より増加しました。依然として付着直前の大型ラーバは多数出現しています。

調査時の水深 10m層の水温は 10.5 $^{\circ}$ Cと、前回調査時より 1.3 $^{\circ}$ C上昇し、平成 9～17年の平均値(11.4 $^{\circ}$ C)より 1.1 $^{\circ}$ C低い値になっています。

2 試験採苗器による付着稚貝調査

5月30日以降の調査において、宮古、釜石および大船渡地区で付着稚貝が確認されました。

各調査点の付着数は 197～6,701 個/袋でした。多くの調査点で、付着数は増加し、多数の稚貝が付着しています。



図 調査点と付着稚貝調査結果

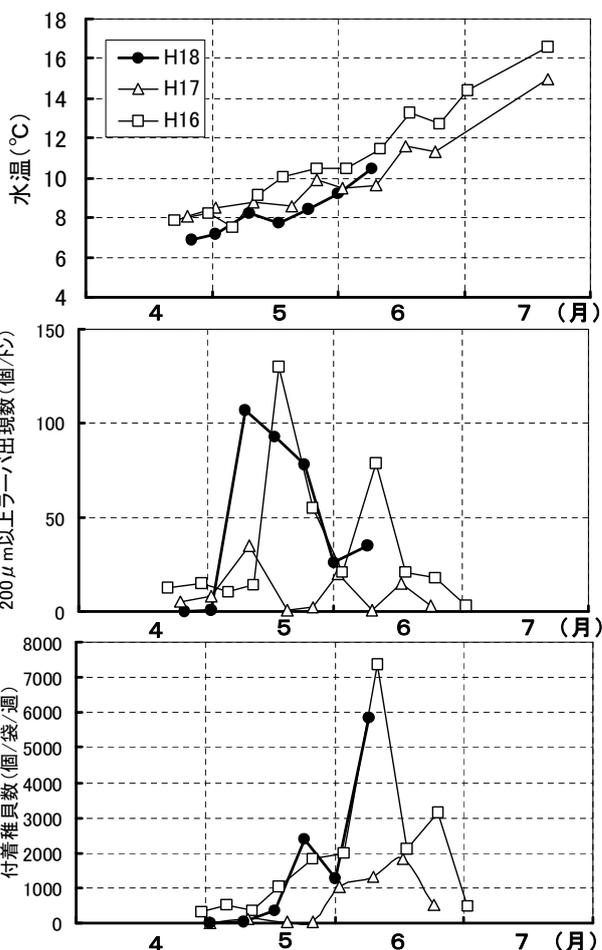


図 唐丹湾における水深 10m層水温とホタテガイラーバ・付着稚貝の出現状況

なお、唐丹湾では、付着稚貝の約 3%が付着直後の個体でした。

付着数の多い状態が 3 週間続いています。また、その水準は、採苗器への付着数が最も多かった平成 16 年度のそれと同等であることから、今年の採苗器への付着数は非常に多いものと予想されます。

次報では、7月中旬に実施予定の付着稚貝調査の結果についてお知らせする予定です。